



第 12 回環境脳科学セミナーのお知らせ

メダカは「顔」で仲間を見分ける

～脊椎動物の社会適応の脳神経基盤～

講師：竹内 秀明 先生

東北大学大学院生命科学研究科脳生命統御学専攻
/岡山大学大学院自然科学研究科（併任）
分子行動分野教授

日時： 2019 年 11 月 29 日（金） 11:45～12:45

場所： 早稲田大学所沢キャンパス 100 号館第四会議室

竹内先生は動物の社会行動に関わる神経機構について、ミツバチやメダカを用いて「社会的コンピテンス（社会に適応する能力）」の解明に取り組んできました。これまでに、メダカのメスは「そばにいたオス」を目で見て記憶し、積極的にパートナーとして選択すること、オスメダカはメスの目移りを防ぐために記憶形成を阻害する行動をとることなどを発見しました。さらにパートナーの受容に関わる神経細胞を同定し、さらに拒絶と需要のスイッチに関わる神経機構を明らかにするなど、神社会適応能力の分子・神経基盤に関する研究の若きトップリーダーです。興味のある方はぜひご参加ください。

参考文献：

1. Wang MY, Takeuchi H. Individual recognition and the 'face inversion effect' in medaka fish (*Oryzias latipes*). *Elife*. 6. pii: e24728, 2017.
2. Yokoi S, Ansai S, Kinoshita M, Naruse K, Kamei Y, Young LJ, Okuyama T, Takeuchi H. Mate-guarding behavior enhances male reproductive success via familiarization with mating partners in medaka fish. *Front Zool*. 2;13:21, 2016.
3. Yokoi S, Okuyama T, Kamei Y, Naruse K, Taniguchi Y, Ansai S, Kinoshita M, Young LJ, Takemori N, Kubo T, Takeuchi H. An essential role of the arginine vasotocin system in mate-guarding behaviors in triadic relationships of medaka fish (*Oryzias latipes*). *PLoS Genet*. 11(2):e1005009, 2015.
4. Okuyama T, Yokoi S, Abe H, Isoe Y, Suehiro Y, Imada H, Tanaka M, Kawasaki T, Yuba S, Taniguchi Y, Kamei Y, Okubo K, Shimada A, Naruse K, Takeda H, Oka Y, Kubo T, Takeuchi H. A neural mechanism underlying mating preferences for familiar individuals in medaka fish. *Science*. 343:91-94, 2014.

問い合わせ先： 人間科学学術院 環境脳科学研究室(535 号室)掛山 kake@waseda.jp